

平成30年度 第1回山武市総合教育会議 会議録

日 時 平成30年8月28日(水) 午前10時  
場 所 山武市役所 第5会議室  
議 題 山武市教育委員会の取組について

出席者 ◎市長 松下 浩明  
◎教育委員会  
教育長 嘉瀬 尚男  
教育長職務代理者 小野崎 一男  
委員 今関 百合  
委員 清水 新次  
委員 木島 弘喜  
委員 渡邊 礼子  
○関係職員  
副市長 寺澤 毅彦  
総務部長 石橋 和記  
教育部長 小川 宏治  
保健福祉部長 小川 雅弘  
総務課長 荒木 康之  
財政課長 鈴木 幸宏  
企画政策課長 中村 洋一  
子育て支援課長 横地 博  
教育総務課長 齊藤 榮一  
学校教育課長 中村 正浩  
学校教育課指導室長 越川 幸夫  
学校再編推進室長 川島 美雄  
生涯学習課長 神谷 英典  
スポーツ振興課長 大谷 広貴  
学校再編推進室主査 鈴木 慎太郎

・事務局

教育総務課総務企画係長 鵜澤 秀己  
教育総務課総務企画係主査補 鈴木 秀一

◎開 会

教育部長

ただいまから、平成 30 年度第 1 回山武市総合教育会議を開会いたします。

皆様には大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

なお、本日の総合教育会議に傍聴したい旨、3 名の方から申し出がございました。

傍聴人の皆様をお願い申し上げます。

傍聴は、山武市総合教育会議設置要綱第 8 条の規定によりまして、山武市教育委員会会議傍聴規則の例によるとされておりますので、同規則の各条項を十分遵守して傍聴していただくようお願い申し上げます。遵守されない場合には、退場を命ずる場合もございます。

同規則第 9 条で、傍聴席において写真などを撮影し、又は録音等をしてはならないと規定がございます。本日の総合教育会議につきましては、録音を許可してございませんので、よろしく願いいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず始めに、松下市長よりご挨拶をお願いいたします。

市長

皆さん、おはようございます。委員の皆様方には日ごろから、市政また教育行政に関しまして、多大なお力添えをいただいておりますことに、まず始めに感謝を申し上げさせていただきます。ありがとうございます。

本日は、本年度第 1 回目の総合教育会議であり、市長に就任して初めての会議でありますので、改めて教育に対する思いを少しだけ述べさせていただきます。

市長就任前の県議時におきまして、千葉県議会文教常任委員会正副委員長を歴任させていただいておりました。山武市選出の県議会議員としては、清水元千葉県教育長様、県議会議員の朝比奈先生、また県教育に大きく携わった方々に恥ずかしくない活動をしなくてはいけないということで、プレッシャーを感じながら県議生活を送ってまいりました。

一方で、山武市の教育への取り組みは、私も県議のときからいろいろ県の教育長様にも伺っておりましたが、県教委から注目されておりました。それは、山武市の金田前教育長様の苗半作の教育理念。そして嘉瀬教育長の、子ども達の将来を見据えたグローバル教育の

推進。生徒自ら考えるキャリア教育の重要性やICTの戦略的な活動について、先進的な取り組みをしているということで、大いに県教委が注目していたと私も感じております。

これらは山武市にとりまして、これから大きくアピールしていけるものだと考えておりますので、さらに進めていきたいと私は考えております。

引き続き市長として、選挙のときにも訴えさせていただきましたが、未来に向けて、子どもたち一人一人の可能性が伸ばせるまちづくりを目指して、我々が作ったかけがえのない、皆さんの山武市で、持続的に発展できる自治体を目指していきたい。そのような思いであります。

人口減少が進む中、その人口に占める子どもの割合も減少しております。これをいかに抑えていきつつ、それに対応した手段も必要であるのではないかと考えております。これは、地域における学校の適正配置もそうであるし、集団での教育ということも考えていかなければならないと考えております。

そのほかにも教育行政につきましては、いろいろなご意見を皆様方からお聞きしたいと思っておりますので、この会議が有意義な会議になるよう、お願い申し上げて、挨拶とさせていただきます。

本日はどうかよろしくお願い申し上げます。

**教育部長**

ありがとうございました。

続きまして、嘉瀬教育長、ご挨拶をお願いします。

**教育長**

本日は総合教育会議の場をいただきまして、本当にありがとうございます。

先ほど市長のご挨拶にもありましたが、松下新市長になられて最初の総合教育会議ということでございますので、今までの山武市教育委員会での様々な取り組みについて、また、それらの課題についてご説明を申し上げ、市長にご理解を得られればと考えているところでございます。

山武市教育の中におきましても、児童・生徒の学力向上というのは、大変大きく重要な課題になっております。それに対しても、様々な取り組みをしているところでございますが、特にICTの活用、それからグローバル化に向けた英語力を高めていくというようなことが、今後、生きていく子ども達に必要な力として、大変重要なものとなっております、我々もそこを重点的に進めていくことが必要だと

考えているところでございます。

また、もう一点、小中学校の規模適正化・適正配置について、現在、その基本計画に沿って進めているところでございますが、この計画につきましても、将来の教育環境を整えていく上で、大変重要なものとなっております。

これにつきましても本日の議題でございますが、順調に進んでいる部分、また十分に地域の皆さんの意見を聞きながら検討していく部分とございます。そういった点につきまして、市長部局と共通理解をしっかりと図りながら、今後、進めていければと思います。

いずれにしましても、山武市の教育行政、教育力アップが、市長の訴えている人口減少対策に少しでも結びつくような形になればいいなというふうに私どもも考えておりますので、本日の総合教育会議を有効に活用していければと思います。

是非よろしく願います。

**教育部長**

ありがとうございました。

それでは、これより議事に入ります。

なお、議長につきましては、「山武市総合教育会議設置要綱」第4条第1項の規定により「会議は、市長が招集し、会議の議長となる」とありますので、市長に議長となつていただき、議事の進行をお願いしたいと思います。

それでは市長、よろしく願います。

---

◎議 事

山武市教育委員会の取組について

(1) 学力向上への取組について

○グローバル教育について

**市長**

それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきますので、よろしく願います。

それでは、「山武市教育委員会の取組について」、(1)「学力向上への取組について」を議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

**指導室長**

それでは(1) 学力向上への取組について、説明をいたします。

今回は学力向上への取組ということで、グローバル教育及びICT教育について、説明を申し上げます。

英語教育の推進ということで、小中学生を対象に、主に3つの取組を行っております。

1つ目は、小学生を対象に行っております異文化理解講座です。外国の文化や習慣、自国との違いを理解し、子ども達に国際感覚とコミュニケーション能力を育むことを目的に実施しています。低学年・中学年・高学年と3つの講座に分け、外国人講師が学校に訪問し、授業を行っております。本年度は、スリランカ、ジャマイカ、オーストラリア出身の講師で、内容も活動的で、興味関心が高まる内容で、児童も意欲的に臨んでいます。

この写真は、実際の異文化理解講座の写真であります。これは1・2年生を対象に低学年に「外国のおいしい食べ物を見てみよう！」です。実際このような感じでやっております。

2つ目は、中学生を対象に実施しております英語検定補助事業です。市内全中学生を対象に、英語検定の受検料を1人年1回、全額補助をしております。平成28年度から中2、中3生を対象に行っております。29年度、全学年、1年生から3年生と補助を広げました。

この補助事業を始める前の平成27年度の市内の中学生の4級以上の英検所持率は13.9%でした。29年度の市内中学生の4級以上の所持率は41.6%と、およそ27.7ポイント、4級以上の取得者が増えました。29年度の市内中学3年生の4級以上の所持率は59.9%、下段のほうになります。平成29年度の3級以上所持率は36.1%であります。

表の真ん中ぐらいに29年度、市内の1・2年生は既に4級以上を62.8%取得しておりますから、今年度、30年度の目標を市内3年生の3級以上の所持率を50%と設定させていただいて、今これに取り組んでおります。

続いて3つ目の取組として、中学生を対象に行っております英語力アップ講座です。市内中学生の英語検定取得に向け、英語力及び学習意欲の向上を図ることを目的に行っております。内容については、3級・4級の受検希望者を対象に、各学校を会場に集中講座を行っております。専門の講師を招き、筆記問題対策、ヒアリング、面接対策など、昨年度は各校1回の実施でしたが、今年度、30年度は夏休み、9月、1月と3回実施します。テキスト教材は、市教委が用意し、各校に配付して活用しております。参加生徒からは、専門の講師が集中的に英検対策中心に指導してくれるので、大変好評を得ています。

これは、3級の2次試験対策、面接練習をしている部分でありま

す。

これは、4級程度を対象に、過去問題を中心に筆記試験対策をやってもらっています。

このように、各学校に行って、希望生徒に実施しています。

続きまして、2のICT教育の取組について、説明をいたします。

はじめに、授業におけるICT機器の活用であります。

1として、まず、授業の一斉学習での活用では、主に教材の提示として、教材提示装置、プロジェクター、電子黒板を活用しています。学習内容の視覚化・焦点化として、タブレットパソコン、書画カメラ、デジタルハイビジョンカメラ（ぼうけんくん）を活用しております。

これはタブレットPC、書画カメラ、マグネットスクリーン、電子黒板機能つきプロジェクター、デジタルハイビジョンカメラの「ぼうけんくん」は学校でも好評でありまして、活用されております。

2として、個別学習の活用として、eラーニングを活用して、一人一人の習熟度に合わせた学習、一人一人の興味関心に応じた学習、ドリルを活用した家庭学習に役立てています。また、タブレットを活用し、調査学習の活用も行っています。

これは、タブレットを活用した、小学校理科の実験です。タブレットで撮影しまして、大型画面に映して、児童生徒の意見を聞いているところであります。これは、調べた内容をノートにまとめたり、各個人で調べた結果を、タブレットを通して大型テレビに映して発表しているものであります。

最後に、教職員のICTの活用として、校務支援システムについて説明をさせていただきます。

校務支援システムを導入して4年目に入りました。児童・生徒の成績などの個人情報管理が強化され、情報漏洩の防止となっています。また、学校現場においては、業務改善による教職員の多忙化の改善の一つとなっています。多忙化が少しでも改善され、教職員がゆとりを持って一人一人の子どもに寄り添えるよう、より一層の活用が進むように取り組んでいきたいと思っております。

以上で、学力向上についての説明を終わります。

市長

ありがとうございました。

それでは、ただいま教育委員会の学力向上の取組として、グローバル教育について。またICT教育について。この2つについて、ご報告をいただきました。実際は、この2つの取組のほかにも、学力

向上の取組は行っていると思いますけれども、特に重点的な取組ということで、最初にグローバル教育、そして英語の教育の取組について、委員の方々のご意見をお聞きしたいと思います。

はじめに今関委員、最近の学校を訪問して、その様子とか英語教育の推進の取組について、成果を含めて、ご意見をいただければと思います。お願いします。

#### 今関委員

今年の4月に長男が中学生になり、夏休みに初めて英語力アップ講座を受講しました。受ける前は、たった2時間の授業で身につくのか不安でしたが、実際に受けてみると、英検の点数の配分のことやヒアリングの対策など、彼自身が自分でこれから勉強できるような内容だったので、とてもよかったです。

あと別件になりますけれども、成東公民館で中学生向けの英検講座も受講しました。少人数で2時間ずつ5日間、みっちりとも見てもらえて、とても勉強になったようです。彼は今、中学1年生なんですけれども、そうやって自分で今、学ぼうと思っていることを教えてくれる先生達がいる、無料で学ばせていただける場があるということは、保護者として、とてもありがたいことだと思います。

以上です。

#### 市長

ありがとうございました。子を持つ親として、現場でそのことを感じたということで、お話をいただきました。ありがとうございます。

続きまして、渡邊委員からご意見を伺いたいと思います。渡邊委員は、教員だったということで、ご自身の経験の中から、山武市の今のこの取組について、また英検の補助事業などの中学校の取組が中心となっておりますけれども、新しい指導要領では、小学校に外国語や外国語活動の内容が入っているということで、その点についてご意見をいただければと思います。お願いいたします。

#### 渡邊委員

グローバル教育の一貫として今、提案されたように、中学生対象の英検補助事業や英語力アップ講座は、その成果が顕著で、すばらしい取組だと思います。今後も続けてほしいと思います。

また、小学校には異文化理解出前講座が行われているということで、子ども達が楽しそうに活動している様子が伝わってきました。これも異文化理解につながるいい取組だと思います。

2020年度から、小学校では英語の授業が5・6年生は、1時間

増えて、週2時間、教科として行うようになります。小学校現場では、その専門性のない多くの職員が、負担と不安を感じています。移行期にあたり、いろいろな地域で、またいろいろな学校で、その取組や対応がさまざまであることがわかりました。

まず、酒々井町では2時間、英語の専科を採用しまして、評価まで行います。私が今、勤めている学校では、英語の教師JETと担任が2時間とも授業を行い、その評価は担任が行います。山武市では、もう既に5・6年生は全部の学校で、週2時間やっているということですが、1時間は担任が行い、あとの1時間はALTと担任が行い、評価は担任が行っているということです。広範囲に調べたわけではありませんが、学校によりいろいろな取組を行っていることがわかりました。

山武市では、英語の学力の向上を学力向上の目玉として掲げていますので、ぜひ2020年度に向けて、どの時間もALTを入れることで、英語の授業を充実させ、学力向上につなげてほしいと願っています。

ちなみに成田市では2006年度から、英語が教科化され、全学年、全時間、ALTが入っているということです。これにより、できる会話の数が増え、1年から6年まで、みんな英語が大好きだということです。

また、成田市はどこでも同じ系統立った英語の授業がなされていて、随分成果を上げているようです。山武市でもぜひ2020年度に向かって、小学校5、6年生に専科あるいは、2時間ともALTの配属をしていただきたいと思います。

以上です。

## 市長

渡邊委員、ありがとうございました。中学校の取組の成果が出ているので続けていただきたいと思いますということと、今、酒々井と成田、他の自治体の事例を挙げていただきまして、2020年度の教育改革の一環の中であるその取組への対応が、山武市もしっかりとやらなくてはいけないということであったかと、思いましたので。貴重な意見、ありがとうございました。

続きまして、清水委員からご意見いただきたいと思いますけれども、清水委員には、学力向上の視点からご意見をいただければというように思います。よろしく願いいたします。

## 清水委員

学力向上といいますと、非常に幅広い概念になりますけれども、本市はグローバル教育が3教育、それからICT教育については、全

県のトップクラスにあるのではないかなど、環境整備としてはですね。

しかしながら、全県との学力テスト、あるいは全国的な学力テストの結果を見ますと、残念ながら、その結果は県の平均にちょっと及ばない。もちろん全国平均には及ばないという状況にあります。これは非常に大きな問題ではないかと考えております。

1つは、学校に対しても、そういうことについて教育委員会としても、かなりむちを入れているんですけども、学校教育のほうとしても、かなり一生懸命取り組んでくれている。しかしながら、家庭教育、うちへ帰って勉強する時間が、ほかの市町村と比べて少ないといった実態がございまして、家庭教育、家庭で振り返るといふ部分が、こういう学力向上対策の教育委員会の取組、あるいは学校の取組に対する理解というものは、家庭は少ないのかなという感じを持っております。

特に学力向上につきましては、私はかつて自治会の班長をやっておりますので、幾つかアパートの方々とお話し合いする機会があったんですが、その2、3人の方は6年生になると引っ越しするんですね。理由を聞きましたら、もっと学力の向上があるような東金市とか成田市へ行きたいという形で、出ていくという部分がありました。

そういう意味から言っても、本市の人口減少、非常に大きな対策として考えなければならぬ部分でもあろうかなど。この学力向上を図って、学校教育を充実するということは、人口の減少に対する歯止めにも大きな役割をするのではないかなど思っております。

学校側も、学力向上については、継続して努力はされているんですが、なかなか思うような結果があらわれないという状況がございします。

そこで、ほかのいろんな市町村の状況を聞きましたら、かつて、南房総市に行きまして聞きましたら、南房総市では、田舎でありますから、塾といったものはあまりないということで、教育委員会で塾の講師を雇って、各学校に派遣するなりして、学校の教育以外の補習というんですか、補充的な教育をやっているというようなことをおっしゃってました。それは有料の場合もあるし、無料の場合もあるというふうなことですけれども、そういう取組とか、あるいはいろんな部分を活用しながら、学校としても、学校教育以外の教育としての取組を実施しているという状況にございます。

本市でも、各学校の各地区に学童クラブというのがあるんですね。私、個人的には学童クラブの、学校としての活用が、少し足りない

のではないかなという感じを持っております。

学童クラブというのは、実は厚労省の所管でありまして、保育が中心で、教育といった部分については、あまりやりたがらないんですね。学童クラブの担当者の方も、教育をすることについては、宿題はいいんですよ。けども、それ以外の学習をすることについては、歯止めをかけるようなことをやっているらしいんですね。

ですから、そういうことについて、ぜひ市長のお力で、学童クラブについて、もう少し教育的な機会を与えられるような工夫なり、していただけないかなという感じを持っております。そうしますと、学校の近くにあるわけですから、学校側としても、家庭学習にかかわるような部分というのは、できるのではないかなと思っております。

ただ、現在は、NPO法人などもいろいろ努力しておりますけれども、学童クラブの担当者の壁にぶち当たっているというお話を聞いております。ですから、この辺をうまく、厚労省の理解を得られる形にしていければなと思っております。

そういうことで学力向上を図っていただきますと、外から、山武市は英語教育もあるし、ICT教育もすばらしい。しかも、その実績も上がっているということになれば、人口減少もとまるでしょうし、むしろ外からの人口が入ってくるのではないかなと考えております。そういうことで、市長のお力添えをぜひともお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

以上です。

## 市長

貴重な意見、ありがとうございます。学力向上の視点ということで、お話をいただきました。学童クラブの形を今後、どのようにしていくかということで、私ももう一回、考えてみたいと思います。

県議のときに文書館に行きまして、山武地域の中学校・小学校、成績のランクというのを自分なりに調べたことがあります。ただやっぱり、それがどうも自分が思っているのと違ったところがありました。もうちょっと何とかしなきゃいけないんだなということを感じていたんですが、正直申し上げて、あまり変わっていないというのが現状かなと思いましたので、その辺また、他の自治体の取組などを勉強しながら、検討していきたいということを考えています。ありがとうございます。

ほかの委員の皆様、何かございますでしょうか。

木島委員、お願いします。

## 木島委員

私も今、清水委員のお話、市長のお話を聞いて、身につまされる思いがしていました。というのは私自身、英語というもので受験のときに結構苦しめられたという経験があります。英語さえできていればという思いが、すごく強く、今も後悔しています。英語がもうちょっとできていれば、全然違う人生を歩んで。そこまで思い入れているんですね。

ですから、いまだに私の受験当時から変わらず、日本の高校、大学と進学していく上においては、国語もそうですけれども、同じくらい英語というものが重要視されているんですね。ですから、今まさに市長のほうからもお話が、ちょっと調べてみれば、山武市の子どもたちのちょっと学力がというところがあったんですけれども、そういった中で英語に関しては今、嘉瀬教育長を中心に、英語力を上げるためにいろんな工夫をされていておりますので、英語については、全国そうですけれども、ほかの千葉県内の他市町村の子ども達に負けなくらいの絶対的なアドバンテージが、山武市の子どもの英語はすごいと思わせるような教育方針というので、これからもっと英語力の、英語教育という部分では力を注いでいっていただけら。

私自身も、そういった部分でいろんなアイデアを出すつもりでおります。そういった部分で、市長のほうもぜひ協力していただければというふうに思います。

以上です。

## 市長

ありがとうございます。

ほかにもございますか。小野崎委員、お願いします。

## 小野崎委員

せっかくの機会なので、私からも。先ほどの市長のお話のように、山武市が全国テストとか県内テストからすると、どんどん上にいければ、非常に自信もあって、いいかと思いますが、それは教育委員会の中でもいろいろ課題になっております。だからこそ、学力向上への取組というのが一つの大きな課題として、教育委員会でも取り組んできたのかなと思います。

よく、家庭の経済力が学力向上というんですか、児童・生徒の学力に比例するような話を伺っておりますが、山武市では、そういうところではなくて、学校の中で、児童・生徒がそれなりに学力が身につくようにすることが、一番いいのかなと思っております。

ですから、ある校長先生に言わせると、授業を受ける態度をまず

基本に、生徒が自分でいろんな教科に、英語も一つの目玉として動いておりますが、英語だけではなくて、数学、理科、社会を含めて、子どもたちが興味を持つ。疑問を持つ。そういう中で、少しでも自分から勉強しようという意識を持つような教育に、学校教育をぜひしていきたいと考えておりますので、市長含め部局の皆さんのご協力をいただければ、ありがたいと思います。

よろしくどうぞお願いします。

市長

小野崎委員ありがとうございました。今、木島委員と小野崎委員からも、お話をいただきました。

2年後の2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催で、たくさんの外国人を迎えることとなるわけですが、子どもたちにとって、グローバル化がぐっと身近に感じられるということになると思います。また県でも、山武市内の小中学校、おもてなしでしたか、2校が指定されたということです。1回目の指定ということで、県内幾つかある中で、山武市では2校ということですので、どちらかというとな数多く選択されたということです。これも山武市の教育委員会の取組が、そのような動きになったのかなというように私は思っています。

英語の学習や国際社会に、これでオリンピックを契機に興味を持つことにまたなろうかと思っておりますので、ますます山武市の英語教育に対しても、また、今度ほかの教科も上がっていくのかという気がしております。

山武の今の子ども達は、国際社会に生きていかなきゃいけない。日本人として日本、そして山武市を正しく発信するために、子ども達の英語力も一層の向上を求められています。ぜひ、今後の取組も一層重視したり、発展する取組を教育委員会としても、しっかりと取り組んでいただくよう要望しながら、私も協力をしていきたいと思っておりますので、お願いいたします。

## ○ICT教育について

市長

それでは続きまして、ICT教育について、ご意見をいただきたいと思っております。

これも申しわけありませんが、今関委員は保護者という立場ですので、先ほどと同じように、実際の学校の取組や子どもたちの声聞かせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

## 今関委員

息子の授業参観に行ったときの話なんですけれども、そのときに家庭科の授業だったんです。先生が針に糸を通す姿を「ぼうけんくん」という、先ほどやっていたカメラで、こうやって映しながら見ていたら、例えば「ぼうけんくん」がなければ、先生の手前に生徒たちが集合して、それを見せて、後ろの子たちが「見えないよ」とかというふうになりがちだと思うんですけれども、「ぼうけんくん」で映すことによって、大きなテレビのモニターで、針に糸を通す様子を映しているのを見たときに、ああ、こんなことができるようになったんだなと感心したのが、とても印象に残っています。

ICT化といって、道具があれだけ充実していて、その中でも先生方がそれをどう活用して、子どもたちの学力向上につなげていくかというのは、先生方にも研修してもらったりとかしなければならぬと思うので、頑張ってもらいたいと思っています。

先生方に対して今、ICT支援員さんに入ってもらっているんですけれども、わからないことがあったときに、先生方が相談できる方たちがいてくれるというのは、心強いというお話を伺うので、これからも、それはよろしくお願ひしたいと思います。

2020年からプログラミングが小学校で必修化、中学校では21年から必修化されます。ICTの勉強というのも、学校だけではなく、家庭学習でもつながっているのが理想だと思っています。多くの小中学生はスマホやタブレットなどは、ゲームやユーチューブを見るために、もう既に持っていると思うんですけれども、それを今度、学習にも活かせるように、例えば今はeラーニングというドリル形式のものは、山武市として提供しているんですけれども、それだけではなくて、例えばプログラミングをするために無料のソフトというのも、世の中に幾らでもあるので、それを使ったら、家庭でどういうふうに勉強できるというのも、提案していかなければいけないのかなというのは感じています。

以上です。

## 市長

ありがとうございます。保護者目線でありありがとうございます。

では、木島委員にご意見伺いたいと思います。木島委員も学校訪問で感じた活用状況など、また今後、どうしたらいいかということ踏まえながら、発言いただければと思います。お願いいたします。

## 木島委員

今、市長から、ICT教育の活用状況と課題、今後の見通しという

ことで、私の考え方というか。私自身、教育委員になって学校訪問をすることで、初めて知ったんです。この山武市が、先ほど清水委員のお話ありましたが、ICT教育環境の整備状況が県内トップレベルなんですね。ほんとに一、二位を争うというか、そのくらいの最高水準にあるということ、私自身、もし教育委員にならなければ、一市民ということであつたら、永久に知ることはなかったのかなと感じています。

というのは、せっかくこれだけの教育環境、教育整備に一生懸命取り組んでいるのに、市民にPRが不足しているのかなと。山武市の教育としてはこういう感じで、県ではこういうレベルにあるんですよということをどんどん広報なり何なりで発信する。あわせて、市内の方たちにも、山武市というのはこういう取組をしているんですよ。先ほど清水委員からもお話がありましたけれども、そういったことを発信することで、山武市は結構進んだ教育をしているんだなということになれば、いろんな意味で相乗効果というんですか、いろんな戦略的意味合いにおきましても、今現在の取組を胸を張って、市内外に発信していってもらいたいと考えます。もちろん、今日見て、びっくりしたという経緯があるんですね。

課題というと、あれなんですけれども、私も結構、インターネットとか好きなものですから、ディスプレイをずっと終日見ていることが多いんですね。そうすると、子どもたちも、きっとスマホなり、学校でも、こういったICT教育でディスプレイとかずっと見ていると、すごく疲れるんですよ。目もそうですけど、体の芯から疲れるといいますか。寝ても、とれない疲れなんですね。

そういったところを考えて、きっとブルーライトか何かの影響しているというふうに聞いたことがありますから、そういった何か対策、フィルムを張るとか、カットする眼鏡といったものも、あるように伺っておりますので、そういったものを市として、子どもたち、学校に配付することによって、健康状態もケアしていただけたらなというふうに思っています。

将来的には、そのICT教育を推進することで、どういうメリットがあるんだということで、皆さん、考えるだろうと思います。私どもが学生のころは、自分のやりたいこと、好きなことを見つけるのも苦労していた時代。大学に入って就職しようというときにも、「あれ、俺、何が好きで、何に向いているんだろう」というような状況だったんですね。

それが今、このICT教育によって、インターネットとか情報とい

うものが、自分の興味のあるものをどんどん突き詰めて考えていける。そうすると、小学生、中学生のうちから、自分の好きなもの、向いている道を見つけることによって、これもすぐ近くにいる先生方とかに相談することで、「自分は好きなんだけど、このことを将来、仕事に活かしていくようなことって、先生、可能？」って聞けば、先生のほうも、こういう仕事があるから、頑張っって、こういう資格を取って、この道に進んでみたらみたいなこと、もう山武市の子ども一人一人が、まさしく自分の可能性を最大限に生かしたすばらしい教育につながっていくと考えておりますので、その辺のところを推進していくのは大変重要で、不可欠であるというふうな認識でおります。

以上です。

#### 市長

ありがとうございました。市のほう、今日、職員もいますけど、広報が足りないということで、これはいろいろな場面で言われていまして、しっかりとやっていきたいと思っております。また、健康にも配慮しなければいけないということも、きちんと頭に入れて対応していきたいと思っております。ありがとうございました。

続きまして、また渡邊委員に、山武市のICTの取組についてということで、お話を伺えればと考えます。

#### 渡邊委員

山武市では、新しい教育課題への対応ということで、早期にICT環境を整えられたというのはすばらしい取組だと思います。中でも、学級の一人一人にタブレットが配付されて、一人一人が手にとって、それを使いこなすことに向けた取組は、これからの世界に生きる子どもたちにとって大変有用だと思います。

また、教師サイドでは、機器の扱いが苦手な職員にも、ICT支援員を派遣しているということは、大変心強いと思います。これからもICT機器を使った授業がさらに進化、拡充していくように先生方も情報交換しながら、より一層努めてほしいと思います。

また、校務支援システムの利用で、補助簿と通知表と要録が連動して行えるというのは、多忙化の教師にとっては大変ありがたいことです。市で統一して、そのシステムが使われるということは、市内どこに転任しても使えるのでいいと思います。

これからも校務支援システムで仕事が簡略化できるようなことがあれば、さらに市全体で、やってもらいたいところです。

それから、先ほども今関委員から話がありましたように、この夏、

教育サポートGAAの川口校長先生が講師として、プログラミングの講座が行われたということです。子どもたちはすごく意欲的に、またほんとに楽しんで取り組んでいたということで、好評でした。なので、学校現場のみならず、GAAのメンバーも活用して、これも広げていけたらいいと思います。

以上です。

## 市長

渡邊委員、ありがとうございました。ほんとにこれが、教師にとっての多忙化解消につながればいいなというふうに私も思っています。ありがとうございました。

最後に、学力向上への取組について、教育長の意見もお聞きしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

## 教育長

いろいろ委員の皆さんからご意見いただいたように、学力向上というものが、教育委員会においても一番の課題にはなっております。清水委員からもご指摘あったんですが、さまざまな取組をしているところではありますが、実際に全国学力状況調査の結果を見ると、まだまだ全国平均に及ばないところがあると。もちろん、いい成績を収めている学校や、そういった結果を出しているところもあるんですが、全体を通して見ると、ちょっと低調ぎみというのは事実でございます。

それに対しても、今回、特にグローバル化に対する英語教育とICT活用について、テーマにしていろいろ意見をもらい、やってきましたが、それ以外の部分でも、この学力向上については取り組んでおりまして、全国学調が、学校現場以外のところから、市内の学力がどうかという評価を得るには、一つの指標みたいになっているところがございます。ですが、これについては毎年、受ける生徒がかわっていくというようなこととか、学力の一面、数学と国語という一部のものしか評価できないというようなことがございまして、これを山武市の学力として見ていくことで、いいのだろうかというような議論も、実は校長会を通して行ったりしています。

そんな中で、山武市の学力の見方ということを中心に全国学調結果ではなくて、継続性を持たせて、今の5年生が例えば6年生になったとき、どういう変化をしているかといった経緯を見ながら、我々の行っている学力向上策が、成果を上げるかどうかという見方に変えていったほうがいいのではないかとということで、昨年度から、そういう評価方法についても、山武市独自の評価方法をしようという

ことで、取り組んでいるところでございます。ですので、そういったもののデータがそろってくると、ある程度、結果が見えてくると思いますので、そのときには報告をさせていただきたいと考えています。

そんな中で、今日、議論したグローバル化に対する英語教育、またICTの活用については、これからの社会を生きる子ども達にとって、ほんとに必要なことであり、重要なものであります。

そんな中ですが、先ほど出ていましたが、子ども達の興味関心を引く。自ら学び、それを深めていこうというような姿勢を作るという意味では、ICTを授業で使うことによって、非常に大きな効果が得られているというふうに聞いています。自分でタブレットを使って調べたり、そういうことですね。また、大きな画面に、ほかの子ども達がやっている状況等を映し出して見るというようなことが、その興味関心を引くことに大きな効果を得ているということなので、そういったことについては、さらに進めていきたいと思っています。

それともう一点、山武市の取組が、周辺の市町に比べて非常に進んでいるという評価をいただいておりますが、このシステムを導入して既に4年目を迎えているところで、徐々にその効果が出ているところではありますが、東金市もこれからタブレット導入を進めていくというお話ですし、大網白里市でも総合型の校務支援システムを今年度から導入していくというようなことがございますので、今、我々がトップだといっている、これはもうすぐに近隣もやってくることで、追いつかれてしまうような状況にございますので、我々としては、さらにこういったものを充実させていく必要があるのではないかなと思っています。

英語教育についても同じですね。我々が英検補助を始めて、英検の取得率というものは大幅に上がってきています。これはもともとが、あまり皆さん、英検を受けないという。もとがなかったのが、大きな成果が出ていますが、これからさらにどうしていくかというのが、我々にとっては課題になってくると思いますが、国も県も、中学3年生時点の英検取得率 50%以上というのを目標にしています。ですから我々は、山武市の状況からいって、いきなり3級50%は厳しいだろうということで、4級から始めたんですが、さっき報告があったように、我々が思っていた以上の成果がここで生まれてきているので、今年度はその50%を3級50%ということで、目標を上げて、国や県の目標に合わせて進んでいくということでございまして、これについては、全国を見ても、県を見ても、これだ

けの成果が、きちんと数字を出しているところは、ほかにはあまりないということで、こういったことについても、ぜひ市長もPRを、よそに行って、山武市教育のPRをどうぞしていただければ、いいのではないかなというように思っているところでございます。

いずれにしても、この問題については継続的に、今後も教育委員会としても、しっかり取り組んでいきますので、市長部局としてもご理解を得て、設備等も進めていけるようにしていただければなと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

## 市長

教育長、ありがとうございました。評価につきましては継続的に見ていかなければならないということでありまして、教育全般がそうだと私も思っております。いろんな取組をしてくれていまして、市としても表に出して、山武市がこういう取組をしているということをやっつけていかなきゃいけないというふうに思います。

ICT関係については、私も市長になる前に、2018年、今年2月の定例県議会で、ICTの利活用についてということで、これは学校教育に限ったことでなくて、県の全般的な計画について質問させていただいたことがあります。

それで現在、技術革新によりまして生産性を向上させ、経済の再生が喫緊の課題となっておりますけれども、これらの問題を解決するためには、AIを含むICTの戦略的な活用が重要となっていることを訴えさせていただき、現在ですが、教育委員会ではなくて、県の総合企画に私が質問してから、総合企画の前の部長と、この件で、出張に行ったときに飛行機の中で話をしていまして、AIとかICTにつきましては非常に大事なもので、千葉県はちょっと遅れをとっている。他県がリードしているということを実に、飛行機の中で隣になりましたので、お話をさせていただきました。

そんな中ですがけれども、定年でおやめになったみたいですが、私の意向を受けてくれまして、この4月に千葉県の中のICT戦略班ということで、総合企画の中に立ち上がっております。これは県全体のことを見ている、別に教育だけではありませんけれども、県もやっとなかなか腰を上げて、こういう方向に進んできたということで、教育委員会のほうは、各市町が先駆けて、こういう取組をやってきましたので、ある意味、先進的な面があるのかなと思っております。

今の子どもたちにつきましては、ICTは特別なものではなくて、市内小中学校での情報活用能力の育成に向けて、さらなる環境の充実を図って、さまざまな学習活動でICTを活用することを期待して

おります。

ですので、私どもとしても、より一層、充実させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

## (2) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について

市長

続きまして、「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について」を議題とさせていただきたいと思えます。

事務局より説明をお願いいたします。

学校再編推進室長

それでは、山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について、説明いたします。

本市の小中学校の規模適正化・適正配置の取組についてでございますが、少子高齢化社会を迎えて、人口減少は避けられず、本市においても、児童・生徒数は減少傾向をたどり、今後さらに減少する見込みでございます。

そういった中、平成 24 年 11 月に学校のあり方検討委員会を設置し、市内小中学校の将来を展望したあり方について、提言をいただけるよう諮問いたしました。平成 26 年 3 月に、学校のあり方検討委員会より、答申書が教育委員会に提出されました。

その後、山武市教育委員会は、市民への説明会を行いながら、平成 28 年 9 月に学校の規模適正化・適正配置基本計画を成案とし、現在、山武市では平成 37 年度までを前期期間とし、5つの学校統合を計画しております。

学校のあり方検討委員会からの答申を受けまして、適正配置計画の策定にあたりまして、学校規模の基準については、教育委員会の中で協議した結果、望ましい学級数といたしましては、小学校では、クラス替えができる 12 学級以上、1 学年 2 学級以上が望ましいということ、また中学校におきましては、1 学年あたり 3 学級以上。こちらについては、主要 5 教科において複数の教員が配置できるといったことから、1 学年あたり 3 学級以上が望ましい規模であると捉えてございました。

その後、検討を重ね、適正配置計画の推進にあたりましては、地理的な条件やさまざまな条件を考慮した中では、小学校においては複式学級の解消。また中学校におきましては単学級の解消を優先する。そのほか、建物の老朽化において、建て替えが必要となる学校につきましては、財政状況や学校施設の整備状況を踏まえた中で、

統合時期を検討していくこととしてございます。

教員の配置でございますが、校長・教頭を除きまして、学級数に応じて教員が増置されます。各学年単学級の全校で3学級の場合は、4名の教員が増になります。したがって、7名で学校を運営する形となります。

全校で9学級以上となった場合には、6名が増置され、15名でございます。この場合には、主要5教科において複数の教員が配置できます。そのほか、保健体育・技術家庭・音楽・美術にも教員を配置することができます。

こちらは、全校で3学級の蓮沼中学校と9学級の成東中学校の教員の配置状況でございます。先ほど申し上げたことが確認されたと思います。成東中学校においては、生徒数も多く、また多くの部活動が行われてございます。

各中学校の部活動の設置状況となります。ご覧のとおり、生徒数が多い成東中学校、また成東東中学校においては、多くの部活動が行われております。その一方で、蓮沼中学校でございますが、種目が限られていることが確認されております。

学校の適正配置計画の平成37年度までの前期計画において、5つの統合を計画しておりますが、本日は「今後検討を要する統合」ということで、蓮沼中学校と松尾中学校、それと成東中学校と成東東中学校の統合について、ご意見をいただきたいと思っております。

こちらは、中学校の今後の生徒数の推移となります。成東中学校と成東東中学校は、今年度は成東中学校が245名、全学年3学級の全校で9学級となります。成東東中学校も同じく、273名、各学年3学級の全校で9学級となります。現時点で両校が統合した場合には、両校の生徒数から15学級となります。今後、平成35年には現成東東中学校において、統合後の両校の生徒数に対しても、教室配置ができる見込みとなります。

続きまして下段のほうになりますが、蓮沼中学校と松尾中学校でございます。現状において統合した場合に平成36年度まで、各学年3学級ずつが維持される見込みでございます。また、それ以降も、各学年複数の学級が維持される見込みです。

ただし、蓮沼中学校は、このまま単独の中学校では、部活動等を理由にほかの学校に進学する生徒が増えていることから、この生徒数で推移するのか、予想するのが難しい状況でございます。

今後検討を要する統合ということで、まず蓮沼中学校の現状と課題をご覧いただきたいと思っております。

一番上の段にございますが、教員の配置の面は、先ほど説明したとおり、学級数に応じて配置され、蓮沼中学校では、右側の課題の欄をご覧いただきたいと思うんですが、各教科1名ずつの教員しかない状況でございます。

このようなことから、1人で全ての学年の指導、授業の準備などを行わなければならないため、1人当たりの負担が大きく、若い教員に対する指導助言の場が少なくなることや、校務分掌を複数兼務することになり、負担も大きくなります。

教科指導の面でございますが、技術家庭、美術は、講師が週1回の勤務となっており、活動に制限がある状況でございます。

また、その下の段でございますが、出張や研修においても、教員のやりくりが全学年にまたがり、授業の組み替えが必要となってまいります。そういったことから、学校運営にも支障を来しておるところでございます。

学校行事におきましても、対抗戦の取組ができず、競争性に欠けてしまい、向上性を競わせる取組が行いづらいといった課題がございます。

生徒数の状況でございますが、蓮沼小学校の卒業生は29名でございましたが、そのうち部活動を理由に11名、私立の中学校に2名が進学し、ほかの中学校に進学しておるところであります。また、他の学区から1名、蓮沼中学校へ進学しましたので、今年度の新入生は17名となります。部活動により、ほかの中学校に進学する状況が続くと、さらに小規模化が進んでまいります。

また、今年度に入って5月14日に、2回目となる「教育委員会に再議決を求める署名」2,023筆の署名と、「蓮沼に小中一貫校を設立する再議決」及び「後期計画の白紙撤回」の再議決を求める陳情書が提出されましたが、この陳情については、6月28日の定例教育委員会において審議した結果、「子どもたちのためには山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画を推進していくことが必要であると考えため」ということから、不採択となりました。

これまで、学校規模適正計画策定にあたっては、小中一貫校などを含めて、さまざまな角度から検討を行ってまいりました。その結果として、小学校同士、また中学校同士の統合による規模の適正化を図り、教育環境を整えていくという現在の適正配置の考えを尊重したものであります。

もう一つの検討を要する統合といたしまして、成東中学校と成東東中学校の統合がございます。これは、成東中学校の老朽化を課題

としております。成東東中学校を統合校の学校位置として検討しているのは、施設の有効利用の観点から、比較的新しい成東東中学校を統合後の校舎とするものです。

先ほど生徒数の推移も確認していただいたところですが、両校ともに、しばらくは望ましい学級数が確保されます。成東東中学校は、普通教室の数が 12 となるため、成東東中学校を新しい学校とする場合には、平成 35 年以降に統合後の両校の生徒数に対しての教室配置ができる見込みとなります。

スライドをご覧いただきたいのですが、成東中学校と成東東中学校の建物の概要でございます。成東中学校の校舎は昭和 38 年竣工で、55 年が経過してございます。また、その下、成東東中学校の校舎でございますが、平成 22 年の竣工で、経過が 8 年と比較的新しい校舎となっています。

また、成東中学校でございますが、この施設の改修状況を確認いただきたいのですが、平成 9 年 8 月に、50 年経過の本校舎の耐震補強工事を実施しております。そのほか、ご覧のとおり、空調、またトイレの改修も行われ、安全性の確保を含めた環境整備が図られております。

蓮沼中学校の小規模化、そして成東中学校の老朽化、これらが課題となっております。

課題をご確認いただきまして、説明は以上となります。ありがとうございました。

市長

ありがとうございました。

ただいま、山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について、事務局から、蓮沼中学校の小規模化による問題と成東中学校の老朽化の状況についての説明がありました。

まずはじめに、蓮沼中学校の小規模化による問題について、教育委員の皆様方にご意見を伺いたいと思います。

はじめに木島委員、いかがでしょうか。

### ○蓮沼中学校の小規模化による問題について

木島委員

地元ということで、私、教育委員会としての立場ですね。蓮沼小中学校のことにつきましては、私自身も蓮沼で育ったんですけれども、非常にいい環境。学校の先生方にも結構人気があるんですね。蓮沼中学校・小学校に行きたいなみたいな先生、同窓会とかやると、

恩師の方が、もう一度、蓮沼に行きたいなんていう話を聞くくらい。中で育った者よりも、外から来ても、蓮沼というところは結構、居心地がいい学校なのかなというふうに考えているところでもあります。

また、今現在、子どもたちが通っている保護者の皆さんも、そういう思いが強いのだと思います。ですから、そういった中で、先ほど事務局からお話がありましたけれども、署名したりして、署名活動を一生懸命やっていたらっしゃる方がいて、どうにかして残していただけないかなという形で、そういったふうな形の方も多いという一つの現実があります。

一方で、もう一つの現実、教育委員会としたら見なければいけないということがありますね。先ほど蓮沼中学校の課題というところから出てきましたけれども、学校の先生が数学とか1教科に1人ですと、1年から3年まで見なければいけないし、授業の準備やら何やらということを見ると、すごく負担が大きい。

あわせて、子どもたちがいわゆる競争意欲のような、部活がやりたいがためにどんどん外に、松尾中学校とか成東東中学校のほうに転入してしまう。そうすると、転入した子どもたちは、それはそれでよろしいのかなと思いますけれども、残された、今現在ですと中学校1年生、17名なんですね。そういった残された子どもたちのことを考えると、どうなのかなということが正直な気持ちでありますし、教育委員会としての立場も、そこを見つめていかなければいけないのではないかとこのところがありますので、教育環境がすばらしいということはわかりますけれども、現在の状況ですね。子ども達がどんどん、やりたい部活があるから流出してしまう。先生方の負担がとても大きいということ踏まえたと、統合という形が、今の蓮沼の子どもたちにとっては一番ベストなチョイスであるというふうに思っております。

以上です。

**市長**

ありがとうございました。

それでは、保護者の立場からということで、今関委員、お願いします。

**今関委員**

息子の場合なんですけれども、小学校のときには6年間、クラスが1つしかなくて、その中で、この子は勉強ができる子。この子はスポーツができる子というように、人間関係が固定化してしまっているのも感じて、せめて2クラスあったらなというのをずっと思っ

ていたんです。

それが今度、蓮沼中に当てはめて考えた場合に、9年間、固定化された人間関係が続くというのは、もしも私がそこにいたら、たとえ人間関係がうまくいっていたとしても、9年間その状態というのは、ちょっとつらいのではないかなというのを私は想像では思っています。

あと今、それを見てみると、山武市内のほかの中学校では、幾つかの小学校が一緒になって、友達の幅が広がったりとか、いろんな人がいていいんですけれども、友人がほかにも増えて、たくさんの意見を聞いたり、討論したり、お互いの考えを尊重して成長しているというのを今、息子を見て、とても感じています。

反対の署名をされている方たちの地域のためという考え方も、わかるんですけれども、学校は第一に子ども達のためであってほしいなというのを思っています。

統合の問題を教育委員になってきてからやってきて、見ていると、ここへ来て、先ほどデータが出ているんですけれども、今現在、17人しかいなくて、成東東中学校にも蓮沼から何人も移動してきているという状況とか、松尾中にも行っているという、子どもたちが自ら選んで、そういうふう動いてしまっているということの方たちにも考えてほしいなというのを思います。

以上です。

## 市長

保護者の立場からの貴重な意見、ありがとうございます。

清水委員、中学生はこれから社会に出ていくための準備段階にあると思いますけれども、このあたりについて、清水委員からご発言をいただきたいと思います。

## 清水委員

私から意見を述べさせていただきたいと思います。

教育委員会の役割というのは、子どもたちにいかにすばらしい教育環境を作ってあげるかということなんだろうと思います。それはもちろん、学校の中でもありますし、それから、子どもたちがいろいろ友達同士でつき合って、友達同士の成長という部分もあるだろうと思います。

そういう中で、幼稚園や小学校の場合には、ある程度、親は強く庇護して、密接にしてカバーしてあげるとい部分があるんだと思いますけれども、中学生、高校生となってくると、社会性ということが非常に大事なのだと思います。これから社会に出ていって、

いってみれば、たくさんの敵と戦わなきゃならんということもあるわけでありませう。家庭の中みたいに庇護されて、やんわりと育つ。そういうことでは、社会に出て行って戦えない部分があるのではないかなと思いますので、そういう部分が必要になってくるということで、できるだけ社会性を広く育てるといふことは大事だと。そのためには、少人数・小規模では、なかなか育たないと。いろんな友達と、自分の合う友達、合わない友達、そういう友達といろいろつき合って、お互いに切磋琢磨しながら育っていくといふことは、大事なのではないかなと思うところでありませう。

ですから、そういう意味で、ある程度の規模を確保してあげるといふこと、そういう環境をつくってあげるといふことは、教育委員会の子どもたちの幸せを考える上で、非常に大きな役割ではないかなといふふうに思います。

そういう意味合いにおいて、今の蓮沼中学校の場合を考えたときに、1年生が17名というお話でしたけれども、2年生はまだ30何名いますから、あれですけれども、今の状況を見ますと、ちょっと危機的なのではないかなと。ですから、ある意味では早急に手を打ってあげたほうが、いいのではないかな。教育環境の点から言っても、学校の先生が変わるとか、また教育内容、部活の問題、こういったところで言っても、ほかの学校に比べて、環境としてあまりよくないのではないかな。そういう部分で、ほかの学校と平等にする必要はあるだろうと。

そういうことから、蓮沼中については、できるだけ早く統合といふものを考えてあげてですね。そのためにはいろんな交通手段といふ部分があると思ひますけれども、その部分については十分カバーしてあげるといふことが必要ではないかなと思ひます。

以上です。

**市長**

ありがとうございました。

小野崎委員にはおかれましては、小中学校の適正配置については、当初からかかわっていたという話も記憶しております。それを含めてご意見等いただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

**小野崎委員**

それこそ、平成26年のあり方検討委員会の答申のときから、実はあります。教育委員としてここにおりますが、基本的には、あり方検討委員会の答申を踏まえて、今のこの資料の2ページ目にあります本市における望ましい学級数といふのを、いろんな観点から論

議をしてきました。それこそ、これだけではなくて、小中一貫校の問題も踏まえて、どういう組み合わせがいいのか。望ましい学級数に向けて、どういう組み合わせがいいのかというところも、ずっと論議をしてきました。

そういう中で、計画案という段階で、それぞれの小中学校の組み合わせを論議した中を、案という段階で、各市民の皆様提案を申し上げて、意見を聞く会というところで、中学校単位、あるいは小学校の保護者単位ということで、意見を聞いてきたということでもありますので、それぞれの市民の皆様の意見を踏まえて、どうしようかというところで、再度、教育委員会の中でも論議をして、基本計画になったわけでございます。

ですから、小学校の部分でも、そこにありますように、ほんとは1学年2学級以上にしたいということであれば、もう少し小学校の統廃合というのが、計画上はされるべきなんですけれども、その下に書いてありますように、地理的な問題、それから学校と地域のかかり合いがあるという前提の中で、小学校の場合は、その下の①にありますように、複式になったら本気になって考えましょうか。複式になるまでは、人数が少ない1学年1学級であっても、そのまま存置をしようということ、望ましい学級数が、論議をしたわけなんですけれども、そこで基本計画の段階では、要はそこまでの統合はしないでもいこうということ、小学校は複式になるまでは、現状のままでいこうというふうにしたわけです。

そういうことも、全て市民の皆様からのご意見を踏まえた中での論議だったと私は思います。ですから、市民の意見を聞かないとかと言う方も、中にはいらっしゃるかもしれませんが、そうではなくて、そういうことを踏まえてきたというふうに思っておりますので、来年度以降、豊岡と松尾の小学校が1つになるわけですが、これも地域からもいろいろ意見があった中で、豊岡地区の皆様も最終的にはご理解をいただいて、松尾小学校と一緒になるということになったわけでございます。

今、スムーズに両校の話し合いをしているというのが現状であります。

中学校も、そういうことからすると、本来は1学年3学級以上ということになります。それが、先ほどから、事務局からまとめがあったように、5科目が2人の先生が配置できる規模だろうということ、来たんですが、そういう提案で、それぞれ進めてきたというのが現状でありまして、それぞれが、その中では山武の地域が、保

護者の意見もあって、これは早目にしたほうが良いという意見があったわけでございます。そういうことを踏まえて、山武地域は来年度以降、一つの中学校ということで進めてきたわけでございます。

蓮沼と松尾なり、成東と東中という問題も、将来的にはしなきゃいけないかなということで、計画では載せてありますが、それぞれ地域のご意見を伺いながらということで、来ているわけでございます。ただ、蓮沼の地域も、先ほどの事務局の提案があったように、東中なり松尾中へ、部活動を含めた中で11人も動いてしまったという現実がありまして、果たしてこのままで、もう少し様子を見るという段階でいいのかなというのが、今の状況でありますので、これらを踏まえて、また地域の人の意見も聞きながら、早目の対応が私は必要かなと思っております。

そういうことで、市長としても非常に苦しい課題として、あるかと思っておりますが、それぞれの地域の話聞きながら、基本的には1学年3クラスというのを目指していくべきだろうなと私自身は思っておりますので、その中での時間をどういうふうに過ごすかというふうに私は思っています。

以上であります。

#### 市長

小野崎委員、ありがとうございます。当初からかかわっていたということで、委員の皆様方からご意見をいただきました。

ここで教育長にこのことについてお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

#### 教育長

教育委員の皆様から、いろいろなご意見を伺った中でございますが、蓮沼中学校のあり方については、先ほど事務局から陳情に関する説明もありましたが、統合に反対されている方の意見にあるような小中一貫校といった形にしたほうがよいのか。それとも統合して、学年の人数を増やしていくという形で環境を整えていくほうが、よいのか。そのほかにも、いろいろと検討してまいりましたが、児童・生徒の教育環境をよくしていくために、どうすることがよいのかということで、考えてきたところでございます。

蓮沼地区の学校を考えた場合に、中学校同士の統合ができる環境にあると考えていますので、また、教育委員の皆さんが言われていますように、中学校の場合は、小中一貫校をするよりも、統合したほうが生徒の数が増えるということから、選択の幅は広がってきますし、教員も充実するというので、こちらのほうがよいというふ

うに判断をしてきています。

これは山武市全体のバランスを見たときにも、そのほうがよいのではないかというふうに考えています。

教育委員会としては、この方向性にありますので、既に単学級化で学校の運営に支障が出てきている上に、生徒がほかの中学校に進学して、小規模化がより進んでいるというようなことから、なるべく早く教育環境を整えていくというふうな進め方をしていきたいと思っています。

市長

ありがとうございます。今、教育長が言われましたように、教育委員会の皆様方のご意見は、蓮沼中学校を早期に統合したほうがよいということでしょうか。

(「はい」の声あり)

市長

5月28日に陳情書の提出を受けまして、私も、市長になってまだ4カ月ぐらいでしょうか。ずっとこの問題に関しては考えていました。将来にかかわりますので、非常に重い問題だということで、慎重に皆さんから意見を聞いてということをおもいました。

もちろん、この間、私も地元蓮沼地域の皆様方にお話を伺ったりもしておりました。そんな中、地元の声とすると、木島委員も先ほどおっしゃっていましたが、つらいこともあるけれども、子どもたちのことを考えたら、やむなしというふうな話が多く出ておりました。

そんな中、先般の教育懇談会の中で、皆様方に小中一貫校についても質問させていただきましたが、山武市の中では、他地域と違い、そぐわないところがあるというようなご意見等も伺いました。

私としましては、山武市の教育は、子どもたちにとっては平等にすべきだということが、私は念頭にあります。そういうことを考えますと、現状、皆さん方からご意見いただきましたけれども、統合したほうが望ましいというふうに私も思っております。

ということで、この場におきまして、お互いに統合を目指すということで、意見が一致したということで、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

市長

教育長。

教育長

統合にあたりましては、少なくとも2年以上の時間が必要という

ふうに考えていますので、それよりも前に時期が決定されていることが必要になってきます。ですので、その時期も踏まえて検討させていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

市長

今、教育長から、少なくとも2年は要するというものでありますので、時期につきましては、これからの手続等もありますので、ご検討をお願いしたいと思います。それでよろしいでしょうか。

それでは、統合を目指すということで、お互いに意見が一致をいたしました。時期につきましては、教育委員会でご検討を願います。

### ○成東中学校の老朽化の状況について

市長

続きまして、成東中学校と成東東中学校の統合について、ご意見を拝聴できればと思います。

議会の一般質問でも、成東中学校の統合について、ご質問をいただいているところです。一部の住民から、見直しを求める声もございます。そういった点からも、教育委員会と十分な意思疎通を図り、子どもたちにとって、よりよい教育環境を提供し、教育の効果を発揮できるよう、議論を重ねていきたいと考えておりますので、もう少しお時間を頂戴したいと回答させていただいております。

本日が、その始めの会議と私も考えておりますので、この件につきまして、ご意見をいただければと思います。

はじめに小野崎委員から、よろしく申し上げます。

小野崎委員

市長が選挙のときにお話ありました。一旦立ちどまって、再検討しましょうという話があったようなんですが、この辺の真意というか、気持ちをお聞かせ願えれば、ちょっとありがたいと思います。

市長

市長就任前の選挙戦の中では、当初、私は、学校問題は選挙戦の焦点にすべきでないという判断で、私の後援会等も動いておりましたけれども、そういつていられない状況に今、追い込まれてしまったといっても過言でないぐらいありました。

そんな中で、私も選挙を通じて回らせていただいた中で、成東中学区の方々の声を聞きますと、非常に思いが強かったというのを感じました。

そういう中で、いろいろ皆さんが説明をしていただいている中でありますけれども、市民の皆様方には、十分な賛意が得られていな

いのではないかということを感じたわけであります。そういった中では、行政としては、進めていけないのではないかというような思いがありまして、もう一度、立ちどまってみて、自分なりに、それがクリアできないと、進めることはできないという判断の中から、少し時間をいただいて、検討させていただきたいという、言葉はそういう言葉であります。

ですので、議会の皆様方にもその言葉で、今のところは理解をいただいていると思っております。

そうではありますけれども、このことは、なしにはできない問題でありますので、丁寧に進めていくことが必要ではないかと私は考えております。

以上になります。

#### 小野崎委員

もう一つ、7ページをご覧くださいと、特に成東中学校と東中の生徒数の予測が出ておりまして、今現在はちょうど3クラスずつということになりますよね。年3学級ずつになっておりますので。そういう点で、教育委員会の中でもいろいろ話をしてきたのは、教育委員会の中でも、前期、後期というふうに二段構えで展開していこうというふうにしていますので、そういう点からすると、最初から、もう30年度にやろうという発想ではなくて、現状は3クラスずつあるので、今後の学級数の推移、生徒数の推移を見ながら、していきたいと思いますとしていくので、これは42年度までは出ておりますが、この先の展開は、今後の中で出てくると思っておりますので、そういう状況の中で、論議をできればいいかなと私は思っております。

教育長がおっしゃったように、実際に統合すると、2年間が必要なので、仮に42年にやる場合には、40年前には方向性を出さなきゃいけないというふうに考えていけばいいと思っておりますので、この推移がどういうふうになるかを、もう少し見たほうがいいかなと私は思っておりますが、基本的には、この両校の統合という方向性で行かざるを得ないのかなと思っております。

#### 市長

ありがとうございます。

清水委員、お願いします。

#### 清水委員

市長も選挙の中で十分感じられたように、おそらく成東中、成東東中の統合については、成東中の関係者からは、非常に強い反発があるのではないかなと思っております。

その理由は、要するに普通、統合ですと、教育環境は整って、子ども達のためになるというような部分だろうと。そういうものがあれば、統合もある程度、住民の方々も納得されるんだと思いますけれども、今回の東中への統合となりますが、向こうのは新しく、こちらのは老朽化したから統合するんだよということで、じゃ、環境が整ったら何なの。単に通学延びて、負担だけが増えるのかというようなところは、地元住民の方々の率直な感想なのではないかなと思います。

ですから、その部分、仮に統合の方向に行くとするれば、いかに教育環境が充実されるか。教員が充実されるか。学校施設あるいはそのほかの環境は充実されるかということ成東中の学校区域の方々に理解してもらおうということが、大事なのではないかなと思います。

その部分が理解できれば、統合やむなしということになるのではないかなと思います。ただ、現段階では、そのことに対する理解というのは、非常に薄いというのが現状だろうと思います。

以上です。

市長

ありがとうございます。

教育長はこの点についていかがでしょうか。

教育長

今回のこの計画は、市の財政状況を考慮して、今ある施設を有効活用するということが基本にありまして、成東中学校と比較した場合に、成東東中学校のほうが施設も新しい。そういったところを活用して統合していったほうが、合理的ではないかということ考慮した計画になってきております。

ただ、今、説明にもありましたように、成東東中学校を使う場合には、現在、統合した場合に、生徒数の関係から、教室がすぐには確保できないというような状況でございますので、計画の中では、35年度以降というふうになっているところでございます。

いずれにしましても、成東東中学校を統合後の校舎として使うということについて、まだ十分な賛意が得られていないというところもございますので、時間をかけて、少し丁寧な対応をしていきたいと考えているところでございます。

市長

ありがとうございます。統合後の学校位置につきましては、市民の皆さんから多くの意見を私も伺ったところですが、成東中学校の施設、位置とか、市の財政状況など、いろんなことが複雑に絡み

合っているように私も認識しております。

これらを整理するためには、もう少し私どもも時間をいただきたいと思います。そして、教育委員会の皆様方と協議を今後も継続させていただきたいと思いますが、この件についてはいかがでしょうか。

**教育長**

おっしゃられるとおりでございますが、成東中学校の老朽化と、今後の両校の生徒数が減少して、望ましい学級数が維持できなくなっていくしますので、統合は避けられないと考えておりますが、市長のおっしゃられるように、協議を続けていくということでは考えていきたいと思っております。

**市長**

ありがとうございます。私も、成東中学校と成東東中学校の統合という面では必要だということで、皆さんと意見が一致しているというように考えております。

その際ですが、統合後の学校の位置とか成東東中学校の位置にするのか。また、ほかのことは考えられないのかということで、今後また私どものほうも、もう少し検討させていただきたいと思っております。そしてまた、教育委員会の皆様と協議をして、山武市の中心的な学校の建設というか、学校なので、しっかりとすばらしいきちんとしたものを、私を皆さんと協議して進めていくべきだと思っておりますので、今後ともご検討いただきたいと思います。

そういうことでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

**市長**

それでは、成東中学校と成東東中学校の統合については、この2校で統合するということが意見が一致したということが、確認できました。

統合後の位置や、時期などについては、引き続き検討していくということで、平成31年度を目途に合意形成が図られればと考えております。早くしっかりと方向は出すべきだということで、31年、私も、この場で突然ですが、そのように思っております。その経過、その都度、協議していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上で、議事は終了ということになりますが、全体を通して、何かございますでしょうか。あれば、ご発言を願います。——よろしいでしょうか。

それでは、ありがとうございました。お返しします。

---

**教育部長**

ありがとうございます。

以上で、第1回の総合教育会議を終了させていただきたいと思  
います。お疲れさまでございました。

---

◎閉 会 午前 11 時 45 分